

対人的信頼感に影響する遺伝・環境要因

- 児童・思春期の子どもを対象とした人間行動遺伝学的検討 -
分担研究者 酒井 厚 山梨大学・教育人間科学部・講師

研究要旨 子どもが親に抱く信頼感に影響を与える要因を考える際には、養育者側の環境的な要因と子ども側の生得的な要因を同時に検討することが必要である。本研究では、人間行動遺伝学的な視点から、児童・思春期の双生児 381 組を対象とし、子どもが親に抱く信頼感への遺伝要因と環境要因の相対的な影響率について検討した。その結果、子どもが母親に抱く信頼感は、小学生の段階では母親からの環境圧による影響を強く受けているが、中学生になると子ども側の要因による影響が強くなることが示唆された。また、このような発達に伴う変化は父親の場合には認められず、母子関係とは異なる要因により、父子間の信頼関係は形成されていることが示唆された。

A. 研究目的

児童・思春期の子どもにとって、親子間の良好な信頼関係は、学校への適応や、精神的健康を維持するのに重要な役割を担うものと考えられている(酒井・菅原・眞榮城・菅原・北村, 2002)。それゆえ、子どもが親に抱く信頼感への影響要因については、これまで多くの議論がなされてきた。従来考えられてきたのは、主に、親が子どもに抱く信頼感や養育態度などの環境要因であった。しかし、このような環境要因は、子どもの気質や性格、行動特徴、情報処理スタイルといった個体側要因と相互作用しあうものである。ヒトゲノム時代を迎えた現代、これらの個体側要因に関しては遺伝レベルからの検討が進められている。現時点では、いくつかの気質的特徴に遺伝子との関連が認められるにとどまっているが、今後、他の個体側要因への検討が進むにつれ、子どもが親に抱く信頼感といった対人関係レベルの研究においても、遺伝レベルからの検討が重要となってくるであろう。本研究の目的は、児童・思春期の双生児を対象とし、子どもが親に抱く対人的信頼感の形成に及ぼす遺伝・環境要因の両者の影響を相対的に知ることである。この場合の遺伝要因とは、遺伝との関連が考えられる個体側要因の影響を総体として把握したものと位置づけており、環境要因との相対的貢献度を、単変量遺伝解析により検討する。

B. 研究方法

調査対象

調査への協力を承諾した小学4年生から中学3年生までの一卵性双生児 215 組(男ペア 88 組、女ペア 120 組、無記入 7 組)、二卵性双生児 166 組(男ペア 40 組、女ペア 72 組、異性ペア 49 組、無記入 5 組)の計 381 組を対象とした。双生児のきょうだいそれぞれに別々の封筒により郵送し、それぞれから回収した。

調査内容

酒井ら(2002)が作成した、子ども用の信頼関係評価尺度を使用した。本尺度は、子どもが母

親・父親それぞれに抱く信頼感を“相手にとって自分は信頼される価値のある存在と思えるかどうか”、という自己評価と、“自分にとって相手は信頼できる存在であると思えるかどうか”という相手への評価(他者評価)を同時に尋ね測定する。各項目は、“お母(父)さんはあなたのことが一番好きだと思いますか”、“お母(父)さんをだれよりも信らいますか”などに代表される5項目であり、4:はい・3:少しはい・2:少しいいえ・1:いいえの4段階評定で尋ねた。

C. 研究結果

尺度の構造と信頼性

子どもによる母親・父親それぞれへの信頼関係評価尺度は、主成分分析の結果、一次元性が確認され、母親に関する信頼関係評価尺度の α 係数が.84、父親に関する尺度が $\alpha = .87$ と十分な値であった。以降の解析では、各尺度の合成得点を、それぞれ「母親への対人的信頼感得点」、「父親への対人的信頼感得点」として使用した。

単変量遺伝解析

子どもが母親・父親に抱く対人的信頼感に影響する遺伝・環境要因について検討するため、単変量遺伝解析を行った。単変量遺伝解析では、ある観測変数(対人的信頼感)に対して、加算的遺伝要因(A)、共有環境要因(C)、非共有環境要因(E)の説明割合を共分散構造分析の結果から推定していく。共有環境要因とは、双生児のきょうだいに同様な影響を及ぼし双方に同じように認知される環境要因のことであり、非共有環境要因は、きょうだいそれぞれに異なった影響を与える個別的体験であり双方が異なって認知する環境要因であるとされる。小学生(高学年)と中学生による横断的な検討を行ったところ、母親への対人的信頼感に影響していたのは、小学生の場合、A:2.19%、C:50.84%、E:47.06%であり、中学生では、A:50.84%、C:8.12%、E:41.09%であった。また、父親への対人的信頼感への影響率は、小学生の場合、A:41.09%、C:19.27%、E:39.69%、中学生では、A:44.09%、C:16.56%、E:39.31%であった。

D. 考察

子どもが母親に抱く対人的信頼感に関しては、小学生から中学生にかけて共有環境要因による影響が著しく減少し、遺伝要因による説明率が上昇することが示された。この結果から、以下のことが推論される。小学生が母親との間に抱く信頼感の形成には、もちろんこの時期においても子どもの生得的な要因は関わっているであろうが、それにも増して、家庭内の母親による環境要因の影響力は大きく、しかもきょうだいに共通した影響を与えられるほどに強力なものであるという可能性が考えられる。しかし、このような母親による強力な環境圧も、子どもが中学生になると、彼ら自身の著しい心身の成長やパーソナリティの発達に伴い、これらの背景を成すと考えられる個体側要因（遺伝要因に関するもの）の影響力が相対的に増すことで、しだいにその“万能”であった効力を発揮できなくなるのかもしれない。

一方、父親への対人的信頼感に関しては、母親に対して見られたような、子どもの発達に伴う共有環境要因の説明率の大きな変化は認められなかった。このことは、家庭内での子どもに対する母親と父親の関わり方が質・量ともに異なることに起因するものと思われ、今後の検討として残された。

E. 研究発表

1. 論文発表

酒井厚・菅原ますみ・眞榮城和美・菅原健介・北村俊則（2002）中学生の親および親友との信頼関係と学校適応 教育心理学研究, 50, 12-22

酒井厚・菅原ますみ・菅原健介・木島伸彦・眞榮城和美・詫摩武俊・天羽幸子（印刷中）子どもによる親への対人的信頼感：児童・思春期の双生児を対象とした人間行動遺伝学的検討 発達心理学研究

2. 学会発表

Sakai, A., Sugawara, M., Maeshiro, K. & Amou, Y.

Twin's trust in mothers in childhood and puberty: A human behavior genetics perspective. 10th International Congress on Twin Studies. London, UK. July, 2001

Sakai, A., Sugawara, M., Maeshiro, K.

Parent-child relations of mutual trust, trust in one's best friend, and school-adjustment: Junior high school students. 17th Biennial Meeting of ISSBD. Ottawa, Canada. August, 2002

被害妄想的観念について

分担研究者 金子 一史 名古屋大学発達心理精神科学教育研究センター・助手

研究要旨 被害妄想的観念を持ちながら不適応となる子どもが存在するものの、被害妄想的観念が、精神障害の種別によって差異があるかどうかは、明らかとなっていない。本研究では、精神障害別に被害妄想的観念の実体について検討した。

A. 研究目的

近年、社会的ひきこもりや登校拒否など、思春期の子どもの不適応行動が一層深刻な社会問題となっている。これらの不適応に陥っている子どもの中には、「クラスメイトから無視された」「友達から仲間はずれにされた」など、被害妄想的な観念を持ち続けて社会生活から退却していく者が存在する。これらの被害妄想的観念は、精神病で見られる重篤な被害妄想より症状は軽いものの、臨床的介入をせず放置すれば、不適応が長期化することとなる。したがって、このような被害妄想的信念は、精神病における被害妄想より症状が軽いからといって、見過ごすことはできない。

被害妄想的観念は、様々な精神障害にみられる。ところが、精神障害別に、被害妄想的観念の実態について実証的に検討した研究は少ない。そこで、本研究の目的は、精神障害別における被害妄想的観念の実態について検討することである。

B. 研究方法

被調査者 臨床群は中部地方の大学附属病院児童精神科外来および中部地方の神経科・心療内科クリニック児童思春期外来を受診し、質問紙への協力を承諾した223名（男子133名、女子93名、不明5名）であった。協力依頼に際しては、口頭での説明を行った。平均年齢は12.51歳（S.D.=3.4）であった。対照群は、高校生487名であった。

測定尺度 (a)被害妄想的観念 金子(2000)の自己関係づけ尺度を使用した。(b)抑うつ尺度 Kovacs(1981)による Children's Depression Inventory (CDI)の日本語版(村田・堤・皿田・中庭・小林, 1989)を用いた。初診時の児童精神科医による診断を検討したところ、多岐に渡っていた。一定人数に達していた診断名は、統合失調症(20名)躁鬱病(18名)登校拒否(20名)強迫神経症(11名)注意欠陥多動性障害(以下ADHDと略, 24名)ヒステリー(13名)自閉症(14名)であった。

C. 研究結果

被害妄想的観念の平均値を産出したところ、統合失調症群において46.37点と、最も高い値となっていた。これは対照群の34.55点より約10点高い値となっていた。統合失調症群について得点

10点高い値となっていた。統合失調症群について得点が高かったのは、登校拒否群の41.67点と躁鬱病群および強迫神経症群の39.67点であった。最も自己関係づけ得点が低かったのは、自閉症群の31.50点であった。1要因の分散分析を行った結果、主効果が有意となった($F(6, 95)=2.58, p<.05$)。テューキー法による多重比較の結果、統合失調症群はADHD群よりも有意に自己関係づけ得点が高かった($MSE=163.2, p<.05$)。

CDIの日本におけるcut-off scoreは22点以上である(村田ら, 1989)。今回のデータにおいて、CDI得点が22点を示したものは有効回答者137人中68人であり、有効回答者のうち49.6%を占めていた。臨床群において抑うつ得点の平均値を産出し、1要因の分散分析を行った。その結果、主効果は有意とはならなかった($F(6, 66)=0.88, n. s.$)。

自己関係づけ得点とCDIの相関係数を算出した。臨床群全体では、 $r=.41$ と有意な正の相関が見られた。群別に算出したところ、躁鬱病群とADHD群で有意な正の相関係数が得られた(それぞれ、 $r=.54, r=.64$)。その他の群では、有意な相関が見られなかった。

D. 考察

精神障害別に被害妄想的観念を算出したところ、統合失調症群は、対照群の一般高校生平均より約10点高く、注目すべき点であると思われる。精神統合失調症では、対人関係上の障害が多々報告されている。その中には、本研究で取り扱った他者の言動を自己に被害的に関連づける被害妄想的観念も含まれる。

なお、被害妄想的観念を従属変数とした分散分析の結果では、精神統合失調症群はADHD群よりも有意に被害妄想的観念が高かった。この点は、精神統合失調症とADHDにおける自己のあり方の違いを反映している可能性があると思われる。

一般に、精神統合失調症では社会的活動が低下し、対人関係から退却していく場合が多い。その過程で、対人関係に全く関心がないかというのではなく、むしろ逆であることが多く指摘されている。対人交流に乏しく、一見無表情であるのに、その内には人への激しいまでの過敏性が存在しているとされている。一方、注意欠陥多動性障

対人過敏性が存在しているとされている。一方、ADHD では、衝動性の問題から、他者にちょっかいを出したり、いつも人の邪魔をしたりする場合が多く、他者に不適切なやり方で介入していく場合が多い。その結果、他者から疎まれたり、他者から非難されたりしがちである。このように、対人関係に表れる不適応のあり方が、精神統合失調症と注意欠陥多動障害では異なっていると考えられる。これらの点が、双方の被害妄想的観念の差となって表れた可能性がある。

なお、その他の群間には有意な差は見られなかったものの、注目すべき点として登校拒否群をあげることができる。登校拒否群の被害妄想的観念は、41.67点で、統合失調症群の次に高いとなっていた。対照群の一般高校生と比べても、高い値となっていた。登校拒否に陥っている者は対人関係において過敏になっており、他者の言動を自己に被害的に関係づけやすいことが示唆された。

E. 結論

臨床群の被害妄想的観念を精神障害別に検討したところ、統合失調症群と ADHD 群との差異、および登校拒否群での被害妄想的観念の高さが明らかとなった。

F. 健康危険情報

研究協力に対しては、口頭にて同意を得た。人権及び利益の保護の取扱いについては問題がない。

G. 研究発表

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

なし

1. 学校での楽しみ:

「○○ちゃんは学校で何が一番好きですか。」

⇒ 学校に関する最も好きなことが何も報告できない 4 3 2 1 1

子どもの問題行動と精神症状
(子どもとの面接)

面接開始

「こんにちは。私は とういす。今日は、お話しによって、○○ちゃんのこと
ころの状態について判断したり、学校やおうちでの○○ちゃんのお話をきかせてもらいたい
と思います。これから○○ちゃんにいろいろお話をきかせてもらいます。例えば、学校の
こととか、お友達のこと、ご家族の方のこととか、毎日の生活についているいろいろなことを
教えてもらいたいと思います。○○ちゃんより上の学年の人や、下の学年の人にも聞く質
問が入っています。○○ちゃんとは直接関係のないこともあるかもしれません。思ったと
おりにこたえてください。正しいこたえとか、まちがったこたえはありません。」

ここで、○○ちゃんとお話しした内容について、お父さん、お母さんなどに、そのまま
考えなしに教えることはありません。もし途中で答えたくない質問があったら、答えなく
てかまいません。お手洗いか、休憩したくなったら、いつでも言ってくださいね。どう
してもやめたくなくなったら、そう言ってください。

それでは、今日お話をきかせてもらってもいいですか。お話をテープにとらせてもらって
もいいですか。それでは、始めてもいいですか。
よろしくお願ひします」

学校生活

学生:

「○○ちゃんは何年生ですか。どの学校へ通っていますか」 _____ 年生

2. 楽しみの継続性: (A2: DE/ 付録 B: DV)

「○○ちゃんは今も前と同じくらいそれを(前述の質問で答えた
最も好きな活動が)好きですか。」

⇒ “最も好きなこと”の喜びが最近明らかに減少している
と報告している 4 3 2 1 2
D

*もしも上記の問いに対する答が学業のことだったら、以下のように尋ねる:

3. 学業以外に好きなこと:

「学料の他には学校で好きなことは何ですか。」

⇒ 好きな社会的あるいは対人的活動に関する報告が得られない

4 3 2 1 3

4. 先生との関係の問題:

「先生とはどうですか。」

⇒ 教師とうまくやっていくことに関する明らか困難を報告する(例えば、少なく
とも一人の先生との決定的な問題や、数人の教師との問題など) 4 3 2 1 4

5. 成績:

「成績はどのくらいですか?」

⇒ 不適切、あるいは満足でない成績であると述べる(少なくとも1つの主要科目
で平均以下の低い成績を示す) 4 3 2 1 5

(もしも成績が悪い場合、以下についてあてはまれば “Yes”(1)、それ以外はNS(3)に○印する：)

6.7 成績不振の原因：

「どうして成績がよくないのですか？」

- ⇒ a. 成績不振は子ども側の努力不足であると述べる 4 3 2 1 6
 b. 成績不振は子ども自身の能力欠如や資質不足のためと述べる 4 3 2 1 7
 c. その他：(記述する) _____

8. 成績の安定性：

「ずっと(前述の質問で答えた成績)ですか。

成績はずっと同じくらいですか」

- ⇒ 最近(過去一年以内)低下してきた 4 3 2 1 8

9.10 宿題に対する態度：

「宿題はどうですか。やっていますか。無理してやっていますか」

- ⇒ 宿題をしない、あるいは最後までしないと述べる 4 3 2 1 9
 宿題をしないことに無関心。宿題をやらなくても平気 4 3 2 1 10

9a. 宿題の回避：(A1f)

「あなたはしばしば自分の宿題を避けますか？」

- ⇒ 宿題をしばしば避けている 4 3 2 1 9a
 AH*

(“宿題をしない” と答えたら、以下のように尋ねる)：

11. 宿題に対する態度の変化：

「これまでずっと宿題をしなかったり最後までやらないでいたのですか？」

- ⇒ 最近(過去1年以内)宿題の実行が減少してると述べる 4 3 2 1 11

12. 学校での集中困難： (A-8;DE/B-5;DY/C;GAD)

「学校で勉強をしなくてはいけないときに、他のことが心配になったり、悲しくなったりしますか。例えば、おうちのことや心配になったりしますか？」

- ⇒ 心配や困惑、抑うつ等の精神的ストレスにより集中困難がある 4 3 2 1 12
 D;GAD

13-16. 注意集中困難：(A-8)

「やることになっていて集中するのは難しいですか？」

- ⇒ 外部からの刺激によって容易に注意をそらされると報告する 4 3 2 1 13
 (A1h) AH*

(もしも注意集中困難がある、または時にはあると答えたら、以下(14、15、16)を尋ねる：)

14. 教師への注意困難：(A1c)

「先生の話を聞くのは難しいですか？」

- ⇒ 聞くことに困難があると報告する 4 3 2 1 14
 AH

*

15. 勉強への集中困難 (A1b=AH/A-8;DE/B-5;DY/C;GAD)

「学校での勉強に集中するのは難しいですか？」

- ⇒ 勉強に集中するのに困難があると報告する 4 3 2 1 15
 AH*;D;GAD

15a. 不注意：(A1a)

「あなたは、学校の勉強で、しばしば綿密に注意することができませんか？ あなたは、しばしばあなたの学校の勉強で、不注意な誤りをしますか？」

- ⇒ 学校の勉強で、綿密に注意するのに困難があると報告する、または、不注意な過ちをおかす 4 3 2 1 15a
 AH*

15b. 学校での勉強の回避：(A1f)

「あなたはしばしば学校での勉強を避けますか？」

- ⇒ しばしば学校での勉強を避ける 4 3 2 1 15b
 AH*

16. 遊びへの集中困難：(A1b)

「遊んでいるとき、ひとつの遊戯(遊びの活動)に集中するのは難しいですか？」

- ⇒ 一つの遊びに専念するのが困難であると報告する 4 3 2 1 16
 AH*

17. 課題遂行困難：(A1d)

「やり始めたことを最後までやるのは難しいですか？」

- ⇒ 課題や用事を最後までやること、課題に専念することに困難あり 4 3 2 1 17
 AH*

17a. 忘れっぱさ: (A11)

「あなたはしばしば毎日の活動を忘れませんか (例: 約束を忘れる, 弁当を忘れる)」
⇒ しばしば毎日の活動を忘れる 4. 3. 2. 1. 17a

AH*

18. 欠席状況:

「どのくらい学校を休んだことがありますか?」
⇒ 頻繁な欠席 (週に1回以上あるいは連続して3日以上、既知の器質性疾病や疾患によるものではない欠席) がある 4. 3. 2. 1. 18

(もしも欠席が多いと答えたら以下のように尋ねる:)

19-22. 頻繁に欠席する理由:

- 「どうしても学校を休むこと (欠席) が多いのですか」
⇒ あてはまれば Yes:1 に、それ以外は NS:3 に○印する
- 学校に行くのが面白くない、つまらない (19) 4. 3. 2. 1. 19
 - お父さん、お母さんやおうちの人のことを心配して (20; A-4) 4. 3. 2. 1. 20
 - ばかにしたり脅かしたり、いじめや仲間はずれなどを仲間や先生に対する心配 (21) 4. 3. 2. 1. 21
 - 両親や家族が自分を家に居させて何かをさせようとしている (例えば、子守りやお手伝いのため) (22) 4. 3. 2. 1. 22
 - その他: (記述する) _____ 4. 3. 2. 1. 23

友人関係

23. 友達の数:

「友達は学校や近所に何人いますか」
⇒ 少なくとも3人以上の友達がいないかつ名前を挙げられない 4. 3. 2. 1. 23

24/25. 親友:

「仲良しの友達または親友は何人いますか。 (その子とは) どれくらいの間仲良くしていますか」
⇒ 少なくとも6ヶ月以上継続している1人以上の親友関係がない 4. 3. 2. 1. 24
(親友とは、他の誰よりも好きで、その友達も同じように思っている人)
⇒ 自分のことを社会的に孤立していると感じたり、親しい友達がいないとしても、その友達も社会的に孤立していると感じると述べる 4. 3. 2. 1. 25

26. 親友の年齢:

「親友は何歳ですか。 (何年生ですか)」
⇒ 対象児と1歳違い以内の親友がいない(とても年上か年下のどちらか) 4. 3. 2. 1. 26

(もしも親友がいないと報告したら、以下を尋ねる:

27. 親友願望:

「もっと友達がいたらよいのにと思っていますか」
⇒ 友達はあまり欲しいとは思わないと答える 4. 3. 2. 1. 27

28. 友達との活動:

「友達と一緒に何をするのが好きですか。 (何かクラブに入っていたり、チームでやるスポーツをしますか)」
⇒ 友達とする活動を報告できない 4. 3. 2. 1. 28

* 報告できる時: (具体的に記述:

29. 友達つきあいの減少: (A2: DE/ 付録 B: DY)
「そうだったこと (前の質問の答え、例えばバイクに乗るとか) はずっと同じくらいやっていますか。友達といるのは前と同じくらい楽しいですか」

⇒ 最近喜びを感じなくなってきた、活動をするのが少なくなっている、友達と過ごす時間が減ってきていることを報告する 4. 3. 2. 1. 29

30. 友達との関係:

「お友達とみなふふうに付き合っているか教えて下さい。」

あなたのお友達をどう思いますか (お友達はあなたのことをどう思っていますか?)」

⇒ 友達や仲間の幸福に関心がない 4. 3. 2. 1. 30

31. 利他主義:

「お友達のために何かしてあげますか? 何かしてあげたら、お返しを期待しますか?」
⇒ すぐに利益が得られそうにない時には、他人のために一生懸命になることはない (利他主義の欠如) 4. 3. 2. 1. 31

32. 告げ口:

「友達が何か悪いことをしたら、友達のことを告げ口する方ですか」
⇒ 仲間を責めたり、告白したりするだろう 4. 3. 2. 1. 32

33. 責任感・罪悪感:

「あなたが友達に何か悪いことをしたとき (あるいは友達をだましたとき) どんなふうに思いますか」

⇒ 罪悪感や自責の念を抱くのが当然のような場合でも、そのような感情を抱かない (あるいは、捕まったり、困ったときだけ自責の念を抱く)

4. 3 2 1 33

34. 敵 (仲の悪い子):

「仲の悪い子がいますか? 友達以外では、他の子たちとはどうですか? (もしも仲の悪い子がいるなら、次ぎのように尋ねる:) どうしてその子 (たち) とは仲が悪くなったのですか?」

⇒ 何人か (1人以上) の同年齢の子とも対立があると述べる (友人との偶発的な問題を除く)

4. 3 2 1 34

あてはまるもの全てに○を付ける:

- a. 原因は自分の性格の悪さのせい (34aa)
- b. 原因は他の子のせい (34bb)
- c. 原因は指導者 (教師・コーチなど) のせい (34cc)
- d. その他 (記述する:)

34a. 怒りつばさ: (A-6)

「他の子があなたをいら立たせたり、からかったりすると、あなたはすぐに怒りますか」

⇒ しばしば神経過敏または他人からいらせられやすい

4. 3 2 1 34a
OP*

35. 他人への信頼:

「あなたは大体、人を信じる事ができていると思いますか」

⇒ 人を信じる事ができない (たいいていの人々に対して; ほとんど信用することができない)

4. 3 2 1 35

活動

36. 二人での活動:

「一人でいるときは何をするのが好きですか (余暇、趣味)」

⇒ 一人でいることが何も報告できない
* ある、と報告されたら内容を記述する: ()

4. 3 2 1 36

37. 二人での活動の楽しさ: (A2: DE/ 付録 B: DV)

「(前述の質問で答えた一人でする活動は) どのくらいやっていますか? 去年はどのくらいやっていましたか?」

⇒ 一人で楽しい活動や趣味をするのが最近では減少している (過去1年間)

4. 3 2 1 37
D

⇒ 引きこもりの増加や社会的活動への興味の減退、悲しみによって一人での活動が多くなっていると述べる

4. 3 2 1 38

39. 一人の時間:

「自由時間のうちのどれくらいをひとりで過ごしますか?」

⇒ 多くの時間を一人で過ごすと述べる

4. 3 2 1 39

40/41. 一人の時の嫌な気分:

「一人でいるとき、どんな気持ちですか」

⇒ 頼りにしている他者から離れていたくないので一人でいたくない。

愛着をもっている主要人物のそばにいたい (40; A5)

4. 3 2 1 40
SA*

⇒ 恐怖によりひとりでいたくない。その恐怖は分離の恐怖とは無関係であると報告される。

4. 3 2 1 41

家族

「次におうちの人について教えてください」

42. 同居家族:

「おうちでは誰と一緒に住んでいますか。」

(同居している人全員について、名前、年齢、子どもとの関係をあげさせる)

⇒ 家族について正しく述べない(だれかを無視したり、死んだり出ていった人のこと

を(正しく)言えない)

⇒ 家族のだれかを嫌いだとか、うまくやっついていけないと自発的に述べる

4. 3 2 1 42

4. 3 2 1 43

「あなたの両親は一緒に住んでいますか?」

(もしも一緒に住んでいなかったら、以下のように尋ねる:)

「どうして一緒に住んでいないのですか? あなたの本当(実)のお父さん(お母さん)はどこに住んでいますか? どのくらいしばしばお父さん(お母さん)に会えますか?」

⇒ あてはまる方に○印を付ける:

a. 実の両親は同居している

b. 実の両親は同居していない

* 別居している実の親との接触頻度についてのコメント: ()

「あなたのおうちでは、だれがいちばん問題を起こしやすいですか?」()

44 最も親密な家族メンバー:

「おうちで一番仲良しなのは誰ですか?」

⇒ 家族の誰とも親密ではないと述べる

4. 3 2 1 44

45/46 母親との関係:

「お母さんとの仲はどうですか?」

⇒ 母親と仲良くやっついていくことに困難があると述べる

実母 4. 3 2 1 45

養母 4. 3 2 1 46

(母親との否定的な関係を述べたら、以下のように尋ねる:)

「お母さんとはどうして仲良くできないのですか?」

⇒ 記述する _____

47-54. 母親との不仲の理由:

(母親との否定的な関係を述べなかつたら、以下のように尋ねる:)

「お母さんとあなたが仲良くできないのは、どんなことが問題になる時ですか?」

⇒ 記述する _____

⇒ あてはまれば“はい”に、それ以外はNSに印を付ける:

a. 子どもの物理的なあるいは具体的な要求や欲求(例えば、金銭、食事、子ども部屋(が欲しい)など)を母親が満たしていない・聞き入れないとき

実母 4. 3 2 1 47

養母 4. 3 2 1 48

b. 子どもの情緒的な要求や親密さや世話への欲求を満たしていない(例

えば、子供は”母は私を愛していない、世話しない、理解していない

い”と感じている、など)

実母 4. 3 2 1 49

養母 4. 3 2 1 50

c. 子どもの独立や自由への要求や欲求を満たしていない(例えば、非常に厳格、過度に”赤ん坊”扱っているなど)

実母 4. 3 2 1 51

養母 4. 3 2 1 52

d. 子どもに対して否定的(例えば、どなる、ぶつ、常にかみがみい

う、またはこきおろしたりするとき)

実母 4. 3 2 1 53

養母 4. 3 2 1 54

(必要なら、以下のように尋ねる:)

「お母さんと仲良くできないとき、誰が悪いと思いますか?」

⇒ あてはまるものすべてに印を付ける:

a. 自分のせい

b. 母親のせい

c. 第3者のせい(例えば、父親、夫婦関係など)

d. その他か: ()

55/56 子どもの気にいること(母親):

「お母さんはあなたの好きなこと・喜ぶことを何かしてくれませんか?」

⇒ 母親がしてくれる自分の好きなことを考えられない

実母 4. 3 2 1 55

養母 4. 3 2 1 56

57/58 子どもの嫌いなこと (母親) :

「お母さんはあなたのいやなこと・気に入らないことを何かしますか？」

⇒ 母親が自分にするいやなことを考えられない

(注：健康的な親子関係では、好きなことも嫌なことも気楽に話すだろうと仮定している)

実母 4 3 2 1 57
義母 4 3 2 1 58

59/60 父親との関係:

「お父さんとの仲はどうですか？」

⇒ 父親と仲良くやっつけていくことに困難があると述べる

実父 4 3 2 1 59
義父 4 3 2 1 60

父親との不仲の理由:

(父親との否定的な関係を述べたら、以下のように尋ねる:)

「お父さんとはどうして仲良くできないのですか？」

61-68 父親と仲良くできない時:

(父親との否定的な関係を述べなかつたら、以下のように尋ねる:)

「お父さんとあなたが仲良くできないのは、どんなことが問題になる時ですか？」

⇒ 記述する _____

⇒ あてはまれば“はい”に、それ以外はNSに印を付ける:

子どもの物理的なあるいは具体的な要求や欲求 (例えば、金銭、食事など) を父親が満たしていない・聞き入れないとき

実父 4 3 2 1 61
義父 4 3 2 1 62

子どもの情緒的な要求や親密さや世話への欲求を満たしていない (例えば、子供は“父は私を愛していない、世話しない、理解していない”と感じている、など)

実父 4 3 2 1 63
義父 4 3 2 1 64

子どもの独立や自由への要求や欲求を満たしていない (例えば、非常に厳格、過度に“赤ん坊”扱いしているなど)

実父 4 3 2 1 65
義父 4 3 2 1 66

子どもに対して否定的 (例えば、どなる、ぶつ、常にかみかみ、またはききおろしたりするとき)

実父 4 3 2 1 67
義父 4 3 2 1 68

父親との問題の責任者:

(必要なら、以下のように尋ねる:)

「お父さんと仲良くできないとき、誰が悪いと思いますか？」

⇒ あてはまるものすべてに印を付ける:

- a. 自分のせい
- b. 父親のせい
- c. 第3者のせい (例えば、母親、夫婦関係など)
- d. そのほか: ()

69/70 子どもの気に入ること (父親):

「お父さんはあなたの好きなこと・喜ぶことを何かしてくれますか？」

⇒ 父親がしてくれる自分の好きなことを考えられない 実父 4 3 2 1 69
義父 4 3 2 1 70

71/72 子どもの嫌いなこと (父親):

「お父さんはあなたのいやなこと・気に入らないことを何かしますか？」

⇒ 父親が自分にするいやなことを考えられない

(注：健康的な親子関係では、好きなことも嫌なことも気楽に話すだろうと仮定している)

実父 4 3 2 1 71
義父 4 3 2 1 72

73-75 家族への子供の希望:

「家族 (おうちの人のこと) について何か変わったらしいのに思うことがありますか？」

⇒ 記述する _____

⇒ あてはまれば“はい”に、それ以外はNSに印を付ける:

a. 外的あるいは物質的変化 (もっとお金があればいい、引っ越したい、新しい家に住みたいなど) に関連した回答である 4 3 2 1 73

b. 家族メンバーの言動や家族同士の関係の変化に関連した回答である 4 3 2 1 74

c. 子どもの自分自身の変化に関連した回答である 4 3 2 1 75

76 家庭での幸福感:

「あなたはおうちの人の人といっしょに暮らしてあわせていますか？」

⇒ 家族の中において幸せではないと述べる

(最も子どもと長く一緒にいる人と) 4 3 2 1 76

77.同居の夫婦の仲:

「お父さんとお母さんの仲はどうですか(今、子どもと同居している親について)?」
⇒ 両親に夫婦関係上の困難があると述べる 4 3 2 1 77
(該当する関係に○印を付ける: a. 実の両親 b. 実の親と義理の親)
(もしも実の両親が別居している場合には、以下のように尋ねる:)

78.別居中の夫婦の仲:

「お父さんとお母さんの仲はどうですか?」
⇒ 離婚しているが別居している実の両親にかなりの(夫婦関係上の) 4 3 2 1 78
困難があるとのべ

(もしきょうだいがいるなら、以下のように尋ねる:)

79.きょうだいの仲:

「きょうだいの仲はどうですか?」
⇒ 少なからぬ悪態、腹立ち、困難などについて述べる 4 3 2 1 79

80.家出願望:

「家出したり、家を出て行きたいと思いませんか?」
⇒ 家出したり、家を出て行きたいと述べる 4 3 2 1 80

81-83.家からの分離不安:

「家を離れていると、どんな気持ちになりますか?」
⇒ 家を離れているとほっとするし、むしろ離れたいと述べる 4 3 2 1 81
⇒ 家を離れると予測しただけでパニックになるし、過剰に悲しくなり引込みがちになつたりと感じると述べる(かんしゃくを起こしたり、噴嘔したり、泣いたりする)(A-1)
(また、両親と離れている時に、両親に危険がふりかかると心配するときは
"Yes"に印を付ける)(A-2) 4 3 2 1 82a
SA*

⇒ 実際に家や両親から離れている時にパニックになるし、過剰に悲しくなったり引込みがちになつたりと感じる(たとえば、家に帰りがたがり、電話せずにはいられない)
(A-1) 4 3 2 1 82b
SA*

⇒ 親子関係の性質や親の子どもへの関心についての不安や心配について述べる(例えば、親に望まれていない、拒否されている、あるいは親から無理やり離れることへの恐怖など) 4 3 2 1 83

恐怖

「ひとは、たいいてい、何かを恐れています。あなたは何がこわいですか。
(もし必要であれば、次のようにたずねる) あなたがこわいときのことについて教えてください」
(記述する) _____

⇒ 恐怖が奇異な(bizarre)ものである(すなわち年齢相応の現実検討からそぐわない)
(記述する) _____ (84は省略)

(註:bizarreは、分裂病の妄想の特徴をあらわすことば) 4 3 2 1 85

(もし必要であれば、次のような質問事項についてたずねる)

⇒ あてはまればYes:1に○印する

「さて、子どもが恐怖をもつようなことについて質問していきます。
あなたがこれらの恐怖で本当になやんでいるかどうか教えてください。」

86/92.広場恐怖(A):

「家の外にいること、たとえばショッピングセンターのようなところ(必要なきに助けが得られないことを心配したり、逃げることでできないことを心配するために)は心配ですか?」

⇒ 突然たえられなくなった場合、逃げるのが困難であるかもしれない、もしくは助けを得ることができない、家から離れた公共の場所(たとえば、混雑、公共の輸送機関)にいることこの恐怖(A) 4 3 2 1 86
P

87/93.社会恐怖:

「他の人が見ている前で恥をかくようなことをしてしまうかもしれないと心配ですか(そのことについて話してください) (A)

⇒ 恥をかいたり恥ずかしい思いをすることを、他の人たちが判定したりもしくは注目しているだろう社会的状況における恐怖(A) 4 3 2 1 87
P

F/ NS Amb T/
No.4 3 2 Yes:1

88/94 学校恐怖:

「学校に行くことは怖いですか」

⇒ 学校恐怖 (念学、分離不安障害は、yes としない。) (A)

4. 3 2 1 88
P

89. 動物恐怖:

「何か怖い動物がいますか」

(「おぼけ」は「その他の怖いもの」、「虫、蛇」は「こわい動物」に含める)

⇒ 動物恐怖 (A)

4. 3 2 1 89
P

90. 高所恐怖:

「高い所、または建物の上、または山に居ることは怖いですか」

⇒ 高所恐怖 (A)

4. 3 2 1 90
P

91. 閉所恐怖:

「狭い場所や物置や部屋などのような場所が怖いですか」

⇒ 閉所恐怖 (A)

4. 3 2 1 91
P

その他の恐怖: (A)

「その他に怖いものがありますか」

記述する _____ P

(前記のような恐怖について、以下の応答項目の評価基準が満たされるかどうか決定せよ)
「あなたは、_____ がこわいと言いました。それについて話してください」

92-96 (もし十分でなければ、情報を集めるための助けとして、以下の質問を下さい):

「あなたはとでも動揺するので、それから (またはその状況から) 離れるために何か特別なことをしますか?」 (B)

「もしそれから離れることができなければ、あなたは動揺しますが、(動揺したとき何をしますか)?」 (B)

「あなたは、あつうよりもこれらのものをあまりにこわがりすぎていると思いませんか? または、他の子よりもこわがりすぎていると思いませんか?」 (C)

「あなたはこれらのこれらの恐怖のために、あなたがいつもしようとすることをすることを許さませんか?」 (E)

⇒ 恐怖についての以下 (1)・(2)・(3) の評価基準のすべてが満たされたならば、下記に Yes としなさい:

(1) 状況や対象を回避しているか、もし耐えようとするならば、強い不安を伴う: (D)

(2) 子どもはその恐怖が過剰で不合理なものであるとわかっている: (C)

(3) 恐怖や回避行動のために、著明な苦痛を感じているか、社会的、または学業上の機能が障害されている: (E)

(言及されたすべての恐怖をここに記載しなさい)

(1) _____ 恐怖 # (1) 4 3 2 1 92
P

(2) _____ 恐怖 # (1) 4 3 2 1 93
P

(3) _____ 恐怖 # (1) 4 3 2 1 94
P

(4) _____ 恐怖 # (1) 4 3 2 1 95
P

(5) _____ 恐怖 # (1) 4 3 2 1 96
P

心配と不安

「子どもは、大抵、いろいろなことを心配します。あなたは心配事がありますか。そのことについて話してください。他には何かありますか。」

⇒ 内容を記述する: (_____) (97は省略)

(必要があれば、次のような質問項目についてたずねる)

「これから、子どもたちが持つような心配事を言います。あなたには、それらが心配事なのかどうか言ってください。」

98. 過剰な心配 : (A : GAD)

「台風や火事のような悪いできごとを心配していますか」

⇒自然災害（たとえば、火事、洪水、台風、暗闇）、もしくは非現実的な心配（すなわち（親が）失業する）に対する過剰な心配
4 3 2 1 98
OV*GAD

99-104 家族についての過剰な心配 :

「両親や家の他の人たちに、次にあげるような心配をしますか。」

「病気になる心配ですか」

⇒家族が病気であるもしくは病気になるだろうと心配する(A2) 4 3 2 1 99
SA

「死ぬこと、またはけがをすることが心配ですか」

⇒家族が死ぬだろうもしくは危害をこうむるだろうと心配する(A2)
4 3 2 1 100
SA

「口げんかすることが心配ですか」

⇒両親が口論するだろうことが心配（口喧嘩） 4 3 2 1 101

「暴力的な喧嘩をすることが、または（それで）怪我をすることが心配ですか」

⇒両親が喧嘩するだろうことが心配（暴力的喧嘩） 4 3 2 1 102

「離婚することまたは出ていってしまうことが心配ですか」

⇒両親が別居離婚することもしくは家族が出ていってしまうだろうことが心配
4 3 2 1 103

「すごくいらしたりまたは落ち込んだりすることが心配ですか」

⇒両親の精神的健康（たとえば、夜しき、抑うつ、過敏さ）を心配する、あるいはこれらの問題もしくは症状を軽減するのを助けるための行動をしよう
4 3 2 1 104

105. 両親から分離することの不安 : (A-3)

「両親から離れることが心配ですか（迷子になること、誘拐されること）」

⇒愛者をもっている主要人物から分離することになるだろうと心配する（たとえば、迷子になるだろう、誘拐されるだろう、殺されるだろう、もしくは、事故の被害者になるだろう）
4 3 2 1 105
SA*

（その他の心配事があるかどうかチェックする）

106. 自分自身への心配の有無 :

「自分自身のことでの心配なことがありますか？（もし心配ならば、次のようにたずねる：）どんなことですか？」

⇒自分自身について心配する
: (内容を明記しなさい) _____
4 3 2 1 106

107. 予期不安 : (A1 : OV, A:GAD)

「将来、あなたの身に何が起ころうか心配ですか」

⇒将来についての過剰、または非現実的な心配（予期不安） 4 3 2 1 107
OV*GAD

108. 過去の不完全さについての過剰、または非現実的な心配 : (OV:A-2, GAD:A)

「完全であらうとすることで心配ですか（過去に、あなたが十分なことをしたかどうか心配ですか）」

⇒過去の不完全さについての過剰、または非現実的な心配 4 3 2 1 108
OV*GAD

109. 能力についての過剰、または非現実的な心配 : (OV:A-3, GAD:A)

「学校、運動、または交友で、うまくやれるかどうか、とても心配ですか」

⇒例えば運動、学業、交友のいずれかにおける能力に関する過剰、または非現実的な心配
4 3 2 1 109
OV*GAD

110. 過度の安全確認 : (A6:OV, B:GAD)

「心配でいっぱい、あなたが安心と感じるためには、大丈夫だよ、と言ってもらう必要がありますか」

⇒いろいろな心配の種について過度に保証を求める 4 3 2 1 110
OV*GAD

(前記のような(項目 98-106 のみ: 過剰不安、家族についての不安(分離不安)、自分についての不安)心配について、以下の応答項目の評価基準は満たされるかどうか決定しなさい。):

「あなたは、_____が心配であると言いました。それについて話してください。」

(もし必要ならば、助けとして、以下の質問をしなさい。心配にどれほど関わっていないならば、機能障害について質問する必要はないことに注意しなさい) :

「あなたはしばしばそれを心配しますか」(A)

「あなたはあまりに非常に心配するために、あなたが他のことをするべきであるとき、いつのまにかそのことを考えているほどですか」(B)

「あなたはあまりに非常に心配するために、それは学校へ行くこと、友人をもつこと、またはあなたがしなければならないことができないですか」(E)

⇒とらわれ-彼/彼女が他の課題をするべきであるとき(例えば、学校の勉強)に心配することなどの、考えすぎること。本来の仕事に集中できない。(B:GAD/ A:SA*)

(言及されたすべての心配をここに記載しなさい。)

(SA)分離不安 (#99, 100, 105)

心配 # (SA) 4 3 2 1 111

SA*

(2) _____ (2) 4 3 2 1 112

(3) _____ (3) 4 3 2 1 113

(4) _____ (4) 4 3 2 1 112

(5) _____ (5) 4 3 2 1 113

⇒ (上記の心配: SA から (5) までについて) 機能障害-発達の課題を妨げる。(たとえば、定期的に学校に行くことができない、適切に仲間と交友することがなく、学校で要求された課題を果たすことができない) (E:GAD/ D:SA)

心配 # (SA) 4 3 2 1 116

SA*

(2) 4 3 2 1 117

(3) 4 3 2 1 118

(4) 4 3 2 1 119

(5) 4 3 2 1 120

121-124. 全般性不安 :

「ときどき、子供は長い時間、神経質な感情をもちます。よく神経質とか、不安な、緊張した、またはリラックスすることができないといったいろいろな言い方をします。あなたはこういふことを多く感じますか」

⇒長い時間の不安、もしくは緊張によりリラックスできないことを述べる (A:GAD, A7:OV)

4 3 2 1 121

OV*GAD

(もし不足しているならば、以下のそれぞれの応答項目に関して、尋ねなさい)

「不安で緊張したときのことについてもう少し教えてください」

122. 身体的緊張 : (C5:GAD, A7:OV)

「あなたは、びくびく震えたり、ぶるぶる震えたり、(筋肉が) れん縮したり、筋肉がひきつたり/動いたりするのを感じますか」

⇒かなり運動性緊張を経験する

4 3 2 1 122

OV*GAD

123. 自律神経系の過活動 :

「あなたは呼吸が困難になったり、汗がでるのを感じたり、めまいがしたり、または心臓がドキドキと速くうっっていると感じますか」

⇒自律神経系の過活動を述べる

4 3 2 1 123

124. 過敏性 : (C1:GAD, A7:OV)

「あなたは過敏ですか。簡単に驚かされますか。周りのものすべてに用心していますか」

⇒周囲に警戒すること、かつ/または過剰覚醒を述べる

4 3 2 1 124

OV*GAD

125. 悪いことへの心配 :

「あなたはいつも、悪いことまたはいやなことがあなたに起こりそうな気がしますか」
⇒悪いことまたはいやなことがあなたに起こるだろうと思う 4 3 2 1 125

126. 悪い子になることへの心配 :

「あなたは、悪いことをすることまたは悪い子になることが心配ですか」
⇒悪いことを起こすことを心配する 4 3 2 1 126

127. 強迫観念 : (A-1)

「ひとには考えがうかび、その考えが頭から離れないということがあります。その人はいつのまにか自分がそのことをずっと考えていて、そのことを考えたくなく思っています。そのようなことが、いつも、あなたに起こりますか」
⇒強迫観念を述べる (すなわち、反復的、持続的な観念、思考、心像、または衝動)

4 3 2 1 127
OC*

(もし強迫観念があれば、次のようにたずねる) :

「そのことについて話してください。そのことでどのようなようにあなたは感じますか。(これらの考えがおきたとき、あなたは何をしますか。)」

⇒その考えがおきないように試みる(A3)
(たとえば、無視、抑制)

129-130. 強迫行為 : (A-2)

「人は、いつのまにか、きれいにすることを確認することのような、あることを何度もすることがあります。それは儀式のようです。決して満足することはできません。あなたはいつもそのようなことをしますか」

⇒強迫行為を述べる (すなわち、反復的で、表面上は目的のある行動で、その行動は、ある規則にしたがって、もしくは常同的に行われる。)

4 3 2 1 129
OC*

(もし強迫行為があれば、次のようにたずねる)

「そのことについて話してください。そのことでどのようなようにあなたは感じますか。」

⇒強迫行為は苦痛の源であり、時間を浪費する、正常な毎日の生活習慣を著明に障害している(C)

4 3 2 1 130
OC*

自己イメージ

131-135. 自己イメージ : (A-7:DE/B-4:DY)

「あなたはどんな子かについて話してくださいませんか? (自分自身について話して下さい。)」

内容を記述する : ()

⇒否定的なことばで自分を述べるたり、とても否定的な発言をする 4 3 2 1 131
D

(必要があれば、次のような質問項目についてたずねる)

132. 身体面 : (A-7:DE/B-4:DY)

「あなたの外見についてどう思いますか」

⇒ 身体の欠点を述べる (例えば、太りすぎている、痩せている、ボディイメージが悪い)

4 3 2 1 132
D

133. 勉強面 : (A-7:DE/B-4:DY)

「あなたはどれくらい頭の良いかということにどう思いますか」

⇒ 自分は頭が悪いと思っている

4 3 2 1 133
D

134. 運動面 : (A-7:DE/B-4:DY)

「あなたはどれくらいスポーツが得意かということにどう思いますか。」

⇒ 自分は不器用もしくはスポーツが下手と思っている

4 3 2 1 134
D

135. 友人関係面 : (A-7:DE/B-4:DY)

「他の子たちはあなたをどれくらい好きかということにどう思いますか」

⇒ 自分は好かれていない、人気がないと思っている

4 3 2 1 135
D

136. 自意識 : (A5:OV/ A:GAD)

「他のひとと自分が自分をどう考えているかについてすぐに動揺したりとても心配になる方ですか」

⇒ 自意識過剰

4 3 2 1 136
OV*GAD

137. 自信 :

「自分の一番自慢に思っていることは何ですか」

⇒誇りに思っている、肯定的で相応に意味のあることを考えられない

4 3 2 1 137

138. 自己嫌悪 : (A-7:DE/B-4:DY)

「自分の一番きらいなところは何ですか。(もし自分のことで何かをかえることができるとしたら、それは何でしょうか)」
⇒ 不安全感や劣等感を感じている、もしくは、自分をさらけ出しているか尊重しない

4 3 2 1 138
D

139. 自責・他責傾向:

「悪いことが起こった時、いつも自分のせいですか。それとも誰か他の人のせいですか」
⇒ 自分の身に起こる悪いことを大抵自分の責任によるものと考える。

⇒ 悪いことを大抵他人のせいにする (自分自身の失敗をしばしば他人のせいにする) (A-5)
4 3 2 1 139a
OP* (140は省略)

141. 家族からみた自分:

「あなたの家族はあなたのことを自慢に思っていますか」
⇒ 自分の肯定的で相応に意味のあることで家族が誇りに思っていることを思いつかない (子どもは家族が何を誇りに思っているか報告することができるにちがいない)
4 3 2 1 141

気分と行動

142-146. 気分:

「子どもは、大抵、たくさんのいろいろな気分や感情をもちます。あなたはいつもほとんな気分ですか。」

⇒ 内容を記述する: ()

「最近の感情のなかで最悪なものはどんなものですか」

⇒ 内容を記述する: ()

(不十分であれば、次のような質問項目についてたずねる)

「次のような感情があったと言つてよいでしょうか」

⇒ (それぞれ) あてはまれば Yes:1 に○印する

142. 悲しみ : (A-1:DE, DY)

「悲しい (または暗い、ふさいだ、または落ち込んだ) ですか」
⇒ 悲しみを感ずる

4 3 2 1 142
D*

143. 筋立ち : (A-1:DE, DY/C-4:OV:GAD)

「よく怒ったり、いらいらしたり、ものごとがすぐ神経にさわると感じますか」
⇒ たいへんいらいらする

4 3 2 1 143
D*

144. 虚しさ : (A-1:DE, DY)

「このところの中がからっぽと感じますか」
⇒ 空虚感を感じる

4 3 2 1 144
D*

145. 絶望感 : (A1:DE, B6:DY)

「何もやりたくない、もういやだ、というように感じますか」
⇒ 絶望感

4 3 2 1 145
D*

146. 喜びの喪失 : (A2:DE/付録B:DY)

「まるで何もう何も楽しいことがないように感じますか」
⇒ アンヘドニア (喜びの喪失)

4 3 2 1 146
D*

147-150. 抑うつ気分の原因:

「誰でも悲しみを感ずるときはあります。あなたがこのように感じるとき、何があなたをこのような感情にさせますか。どんなときにこのような感情になりますか。」

(必要であれば、次のようにたずねる: “あなたが悲しいときについて話してください。”)
内容を記述する: ()

⇒ あてはまれば Yes:1 に、それ以外は NS:3 に○印する

- a. 学校に關係する (例、勉強の道具合に關して) 4 3 2 1 147
- b. 仲間や社会活動に關係する 4 3 2 1 148
- c. 家族に關係する 4 3 2 1 149
- d. 自分についての感情に關係する 4 3 2 1 150

悲しみへの対処:

「このような悲しみ (感情) についての子どものことはをつかって) を感じるときあなたは何をしますか」

(記述する:)
(もし子どもが、上記の#142-146: 悲しみ・苛立ち・虚しさ・関心の喪失・喜びの喪失、の感情のどれかに「yes」と答えたとき、もしくは一過性でない悲しみを述べるとき、以下のようにたずねる)
151. 抑うつ気分の頻度:
「感情についてたずねてきましたが、どれくらい(どれくらいしばしば)このように(悲しみ・苛立ち・虚しさ・関心の喪失・喜びの喪失)感じますか?」
⇒ほとんど毎日悲しみを感ずる (もしくは、いらいらする、空虚感、絶望感、もしくは、喜びの喪失)
4 3 2 1 151
DE*

152. 抑うつ気分の特徴:
「このように感じるとき、ほとんど何をしてもこのように感じますか、それとも、何か特別なことをしているときだけですか。」
⇒すべて、もしくは、ほとんどすべての日常活動をしている時に、悲しみ (もしくは上記の同様の感情) を体験する
4 3 2 1 152
DE*

155-165. 泣くの気分
「悲しみ (もしくは落ち込んだ、もしくは何も楽しいことがない) を感じるとき、あなたは次のようなことをしますか。」
155. 泣く: (A1)
「泣きますか? (もし泣くのなら、どれくらい泣きますか?) (毎日、何日も、あるいはたまにですか?)」
⇒しばしば、もしくはその時間のほとんど (1週間に数回もしくはそれ以上)、泣く
4 3 2 1 155
DE

156. 怒り:
「怒りを感じますか」
⇒怒ることを報告する
4 3 2 1 156

157. 反応性の欠如:

「たとえよいことが起こっても悲しみを感ずりますか」
⇒反応性の欠如
4 3 2 1 157

158. 自己価値観の低下: (A-7: DE/B-4: DY)
「自分がだめな子だと思えますか」
⇒自己評価の低下
4 3 2 1 158
D

159. 罪責感: (A-7: DE/B-4: DY)
「あなたは自分は悪い子だと思えますか、もしくは罪責感を感じますか」
⇒罪責感
4 3 2 1 159
D
(150は省略)

161. 興奮・過活動: (A-5: DE/ 付録 B: DY)
「あなたはとてまあち動きまわったり、いつも何かをして活動的ですか」
⇒無煩もしくは多動
4 3 2 1 161
D

162. 精神運動性抑制: (A-5: DE/ 付録 B: DY)
「あなたはのろくなったり、あまりしゃべらなくなったり、あまり動かないですか」
⇒精神運動性の抑制
4 3 2 1 162
D

163. 過去の思い出:
「あなたは起こってしまっただよくないことを何度も何度も考えますか」
⇒いやな出来事を気に病む
4 3 2 1 163

164. 一人でいられない気分:
「あなたはいつも誰かと一緒にいたいですか」
⇒まとわりつきたい感情
4 3 2 1 164

165. 焦燥:
「あなたは、じっとしていられない、またはいつも動揺していると感じますか」
⇒焦燥感
4 3 2 1 165

166. 絶望感: (A-1:DE, B-6:DY)
「このような悲しみを感じるとき、あなたはものごとにはうまくいくだろうと感じますか、それとも絶望的だと感じますか」
⇒ものごとにはうまくいくだろうと感じない、絶望感を感じる 4 3 2 1 166
D

167. 寂しさ:
「あなたは寂しく感じるものが、どのくらいありますか」
⇒多くの時間に寂しく感じる 4 3 2 1 167

168. 死についての思考: (A-9:DE, Bの代案:DY)
「死について考える子もいます。あなたは死について考えますか。どれくらい考えますか」
⇒しばしば死について考える、単に死への恐怖ではない 4 3 2 1 168
D

169-173. 自殺念慮・自殺企図: (A-9:DE・Bの代案:DY)
169-170. 自傷・自殺念慮:
「あなたはこれまでに自分を傷つけようと考えたことがありますか。
(もしあれば、) 自殺することまで考えたことがありますか。」
⇒自分を傷つけようと考えたことがある 4 3 2 1 169
D
⇒自殺しようと考えた 4 3 2 1 170
D

(もしあれば、以下のように尋ねる)
171. 自傷・自殺企図:
「どれくらいしばしば、あなたは自分を傷つけることについて考えたことがありますか。」
⇒自分を傷つけようとするか/または自殺しようとする考えの繰り返し 4 3 2 1 171
D
(もしあれば、以下のように尋ねる)
172. 自殺の計画:
「あなたはこれまで、どのように自分を傷つけようか考えたことがありますか。」
⇒自殺の方法を明確化できる 4 3 2 1 172
D

(もしあれば、以下のように尋ねる)
173. 自殺企図:
「あなたはこれまで、自分を傷つけようとするまたは自殺しようとするのを何か実行したことがありますか。」
⇒実際に自分を傷つけようとするまたは自殺しようとするのを試みたことがある 4 3 2 1 173
D

174. 自傷につながる不注意な行動:
「あなたはこれまで、自分を傷つけるとわかっているのに、不注意に行動したことがありますか。」
⇒自分を傷つける願望が底にあることを示唆するようないかなる種類の不注意さを報告する 4 3 2 1 174
D

身体症状

175-184. 睡眠障害:
175. 睡眠障害の有無:
「眠ることは難しいですか」
⇒睡眠障害がある 4 3 2 1 175
(不十分なところがあれば、次の a. 過眠・B 両類と就寝までの質問項目について尋ねる):
176. 過眠: (A-4:DE/B-2:DY)
「前よりよく眠りますか。(昼寝をしますか; ぎりぎりまで 寝ていますか)」
⇒a. 過眠、もしくは以前よりかなりたくさん眠る 4 3 2 1 176
D

「次のようなことは難しいですか」:
177. 入眠困難: (A-4:DE/B-2:DY/C-6:OV・GAD)
「眠りにつくことは難しいですか(時間の長さについて尋ねなさい)」
⇒b. 眠りにつくことは難しい(30分から60分) 4 3 2 1 177
D, OV:GAD

178-179. 悪夢:
「こわい夢を見ますか。(もし、みるのならば、内容について尋ねなさい)」
⇒c. 頻回の、もしくはかなり動揺した悪夢 4 3 2 1 178
⇒d. 分離といういやな主題についての悪夢の繰り返し(A7) 4 3 2 1 179
SA*

180. 夜驚症:

「夜中に怖くなって(すっかり動転して)目が醒めますか」

⇒e. 夜驚がある

4 3 2 1 180

181-182. 早朝・夜間覚醒:

「ほんとうに朝早く、または夜中に目が醒めますか」

⇒f. 早朝覚醒 (A-4:DE/B-2:DY)

4 3 2 1 181

D

⇒g. 中途覚醒 (A-4:DE/B-2:DY/C-6:OV:GAD)

4 3 2 1 182

D, OV:GAD

183. 夢遊病:

「睡眠中に歩きますか」

⇒h. 睡眠時遊行

4 3 2 1 183

184. 両親と就寝: 近くに主たる愛着対象がないと眠るのは困難 (A-6)

「お父さんかお母さんが一緒に、そばにいないと、眠ることは難しいですか」

⇒i. 両親と就寝する: 近くに主要な愛着対象がそばにいないで寝ることは難しい (A-6)

4 3 2 1 184

SA*

185. 食欲の減退または増加: (A-3:DE/B-1:DY)

「食欲はどうですか。食事を楽しんでますか」

⇒食事療法をしていないのに食欲の喪失や過食

4 3 2 1 185

D

186. 体重の変化: (A-3:DE/ B-1:DY)

「最近、体重が増えたりまたは減ったりしましたか。(もしあれば)どのくらいですか」

⇒著しい最近の体重増加または減少 (もし15%の体重減少ならば神経性無食欲症を考

なさい; もし、むらや食いがあれば神経性大食症を考えなさい) 4 3 2 1 186

D

187-190. 腹痛:

「どれくらいしばしばお腹が痛かったり、頭が痛いとか、他に痛みや疼痛がありますか。(吐き気や嘔吐がありますか)」

(もしあれば、以下のように尋ねる)

「これらの痛みであなはいつても何かをすることができないですか。ふつうは、いつこ

らの痛みがありますか。医者は何か悪いところを見つけてましたか。」

⇒非常に多くの痛みと疼痛を体験する; それについての身体的基盤は確認できない

4 3 2 1 187

D

(腹痛続き)

⇒あてはまれば Yes:1 に、それ以外は NS:3 に○印する

b. 重篤である (すなわち、痛みのために学校かつまた社会的/対人的活動ができない)

4 3 2 1 188

c. 学校のある日にはよく、もしくは、愛着をもっている主要な人物からの分離が予測さ

れる学校以外のときにおこる (A-8)

4 3 2 1 190

SA*

191. 疲労感: (A-6:DE/B-3:DY/C-2:OV:GAD)

「前よりひどく疲れを感じますか」

⇒疲労感は普段より気力が減退しているものから極度の倦怠感までである; 普段より時間が

かかる

4 3 2 1 191

D, OV:GAD

192. 多動: 常に動き続ける (A2e)

「落ち着きのないことがありますか。;”じっとしていない。”または元気があり

あまっていることがありますか」

⇒多動性を報告する(いつも”じっとしていない”)

4 3 2 1 192

AH

* 193. 遺尿: (A)

「おねしよやおもらしをしますか」

(もしあるならば、以下のようにたずねる)

「このことでお医者さんに診てもらったことがありますか。何といわれましたか」

⇒おねしよやおもらしをよくする、既知の医学的原因がない

4 3 2 1 193

EU*

194. 遺糞: (A)

「そそをしますか。(パンツに便をしますか)」

(もしあるならば、以下のようにたずねる)

「このことでお医者さんに診てもらったことがありますか。何といわれましたか」

⇒遺糞もしくは大便で汚すことを報告する、既知の医学的原因がない

4 3 2 1 194

EU*

行動化

195-198. 怒り:

「腹を立てたり怒ったりしたとき、あなたは何をしますか。」

(記述する) _____

「どんなことに、あなたは腹を立てたり怒ったりしますか。(不十分なところがあれば、次のようにたずねる) あなたが腹を立てるだろうときのことについて、教えてください」

(記述する) _____

⇒ あてはまれば Yes:1 に、それ以外は NS:3 に○印する

- 欲求不満に対する耐性の低さ(すなわち、彼に過大な要求をされたり、もしくは過急に何かをすするように要求されると、欲求不満になる) 4. 3. 2. 1. 195
- より激しい感情的なこと、(例えば、両親が動揺するようになことについて話しているのを聞く; 感情を書いたとき) 動揺する (例えば、親とけんかする、親の恋人が親子関係に入り込んでくることに対する怒りも、より激しい感情的なことに含まれるだろう) 4. 3. 2. 1. 196
- 他のひとが怒らせる (悪口を言ったり、攻撃する) (親に急に怒鳴られるもしくは小言をいわれることも含まれるだろう) 4. 3. 2. 1. 197
- 自分の理想に従って生活することができないとき 4. 3. 2. 1. 198

199. 衝動性:

「物事をよく考える前に行動したり物事をしてしまう、とわかっていますか」

⇒ しばしば考える前に行動する (A2 のいずれか) 4. 3. 2. 1. 199 AH*

(もしあれば、もしくは「ときどき」あれば、以下 (200-204) のように尋ねる):

200. 学校での不規則発声: (A2f)

「授業中、よく声をあげますか」

⇒ 頻回に授業中に声をあげる 4. 3. 2. 1. 200 AH*

201. 順番待ち: (A2h)

「順番を待つことが難しいですか。(競技のようなとき)」

⇒ 遊びのとき、もしくは集団の状況で、順番を待つことが困難 4. 3. 2. 1. 201 AH*

202. 作業中の指導の必要性:

「することになっていて、その時間の大半、助けが必要ですか。」

⇒ 監督を多く要する 4. 3. 2. 1. 202

202a. 紛失: (A1g)

「ものをよくなくしますか、学校に必要なものとか。」

⇒ 学校や家で課題や活動に必要なものをしばしばなくす 4. 3. 2. 1. 202a AH*

203. 作業の計画困難: (A1e)

「どういう順番でやるのかを考えるのが難しいですか (ちゃんと何をすることになっているのわかることが難しい)」

⇒ 仕事を順序立てることが困難 4. 3. 2. 1. 203 AH*

204. 課題の完遂困難: (A1d)

「最初によく考えないで、ひとつのことをして他のことへ転々とする方ですか」

⇒ しばしば1つの活動を完了しないで他の活動に移る 4. 3. 2. 1. 204 AH*

204a. 恨み: (A-7)

「よく怒りますか。恨んだりしますか」

⇒ しばしば怒り腹を立てる 4. 3. 2. 1. 204a OP*

205. かんしゃく: (A-1)

「怒りをおさえることが難しいですか」

⇒ しばしば怒りをおさえることが難しい 4. 3. 2. 1. 205 OP*

206. 学校での規則違反: 規則無視: (A-3)

「学校で規則に従うことは難しいですか」

⇒ 大人の要求や規則に従うことに積極的に反抗または拒否する 4. 3. 2. 1. 206 OP*